

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12010210

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	学校教育の充実	事業優先度	A		
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	1	単独自治事務(例規)	
事業名	小中学校児童生徒検定チャレンジ促進事業					
事業期間	平成25年度～平成29年度					
事業主体	雄武町					
事業指標	資格取得者数					
事業目標	小学校120人 中学校100人					
住民参加	無					
住民協働	無					
			見直し年度			
			担当課	12	教育委員会教育振興課	
			関係課	#N/A		
			ハード/ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
			関係例規・法令名	有	雄武町立小中学校児童生徒検定チャレンジ促進助成金交付要綱	
			関係個別計画名	無		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	漢字検定・英語検定等受験料の助成	検定受験費用の助成	検定受験費用の助成	検定受験費用の助成	検定受験費用の全額助成	検定受験費用の全額助成
	事業費(千円)	1,625	325	325	325	325
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	1,625	325	325	325	325	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	375	103	123	149	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	375	103	123	149		
関 連 事 項	特定財源の名称					
	【評価・実績】	(実施内容等) 検定受験費用の助成 児童67人・生徒99人	(実施内容等) 検定受験費用の助成 児童69人・生徒52人	(実施内容等) 検定受験費用の助成 児童58人・生徒39人	(実施内容等) 検定受験費用の助成 児童58人・生徒39人	(実施内容等) 検定受験費用の助成 児童58人・生徒39人
		※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	※事務事業評価結果 B-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 120人・100人	年度目標値 120人・100人	年度目標値 120人・100人	年度目標値 120人・100人	年度目標値 120人・100人
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率 32%	年度達成率 38%	年度達成率 46%	年度達成率 0%	年度達成率 0%
	全体達成率 6%	全体達成率 14%	全体達成率 23%	全体達成率 23%	全体達成率 23%	
	備考欄					

事業名	小中学校児童生徒検定チャレンジ促進事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	澤田 朋 朗
		評価者 作成者 職氏名	教育振興課教育総務係長	高橋 洋 祐

様式1
平成27年度実施
平成28年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	児童、生徒	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	チャレンジ児童生徒数	
【抱える課題やニーズは】	児童の漢字検定並びに生徒の漢字検定及び英語検定における受験費用の保護者の経済的負担の軽減。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	漢字検定及び英語検定受験費用を一部助成することにより保護者負担の軽減を図る。	① チャレンジ児童生徒数	目標年度	平成27年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	受験費用の一部助成により、受験者が増加し、児童生徒の漢字力及び英語力の向上が図られる。		目標値	220人
			実績値	97人
			達成度	44.1%
		②	目標年度	平成27年度
			目標値	
			実績値	
			達成度	#DIV/0!%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	助成金の支給	受験者の取りまとめは、町内各小中学校が窓口となり、教育委員会に報告。教育委員会は各学校からの申請に基づき助成金を交付しています。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	児童、生徒の学習意欲、チャレンジ精神の向上、保護者への経済支援として、受験費用の一部助成は、学力向上のためにも必要であると判断します。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	目標値を下回ったことから、制度利用増に向けて保護者等への啓発を充実する必要があります。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	学習意欲、チャレンジ精神の向上を推進するために行っている事業であり、現時点においては、コストに見合った効果が得られていると判断します。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減 その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	児童、生徒の誰もが、チャレンジする場合に助成が受けられるものであり、公平性が保たれていると判断します。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	受益が一部に偏る その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
平成25年度以降、受験回数制限撤廃及び小学生に対する英語検定の受験費用の一部助成等、事業の制度設計の拡充を進めています。目標として設定しました受験者数を下回りましたので、制度利用増に向けて保護者等への啓発の充実等、事業の進め方に改善が必要であります。		

今後の展開方向
(Action)

継続/拡充		
学校と連携する等、保護者等に対する啓発に取り組むこととし、平成28年度からは検定受験費用の全額助成について実施することとします。		

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止